

中河内地区 (天草市)

地域をともし 未来につなぐ 小さなひかり～水田裏作を活かした持続可能な農業～



ビジョンの概要

地区の課題

- ・水田利用が米の単作で、裏作がほとんどない。
- ・個人単位での機械所有でコストが高くなっている。
- ・米以外の収益の柱となる作物がない。
- ・イノシシなど鳥獣の被害が多いが、対策を行う農業が減ってきており、農作放棄地が増加する恐れがある。

ビジョン

地区の目指す姿

(1) 機械の共同利用、大規模な機械化などで 営農コストを下げる取り組みを行う。

- ①暗渠排水の整備を行い、水田の乾田化を図ることで、幅広い作物栽培が可能な土地へ。
- ②高単価作物であるかぼちゃ200a、オクラ10aを新規導入する。
- ③共同利用機械の整備、ドローンの導入を行う。

(2) 特産品の開発・販売などを通じて地域の活性化や、 地域ブランドづくりを目指す。

- ①以前より植樹が行われてきた椿を利用した新商品の開発・販売。
- ②地域全体の農作物の品質を向上させ、ブランド化を図る。

(3) 耕作放棄地の解消を行い、農地保全を図る。

- ①圃場整備などにより改善された農地の有効活用・保全。
- ②イノシシ対策となる電線の整備。
- ③地域にマッチした付加価値の高い作物を導入する。

成果目標

- ・高単価作物として、かぼちゃを200a、オクラ10aを新規作付けする。
- ・収穫体験を1回以上実施する。
- ・スマート農業を目指した共同利用機械の整備を行う。

ビジョン策定のプロセス

平成12年から問題意識を共有

先進地視察で目標を設定



天草市有明町農事組合法人「夢有ランド」、八代市坂本町農事組合法人「鶴喰なの花村」などへ視察研修を行った。視察や役員会議を重ね、機械化、法人化を目標に。地域住民へのヒアリングも重ねつつ、農業ビジョンの具体的な検討を行った。

スマート農業のイメージ共有

視察研修で農業用ドローンなどスマート農業技術を実際に見たことで、活用への具体的なイメージを共有。個別所有により過剰投資となっていた農業機械の利用体系見直しや、基盤整備、ドローンの導入など効率化を中心としたビジョンを策定した。

反対意見も出たが、合意へ

自己経営が可能な農家などからは反対意見も出たが、地域の今後を見据えた十分な説明を行い、最終的に合意。

具体的取り組み

(1) 機械の共同利用、大規模な機械化などで 営農コストを下げる取り組みを行う

- 暗渠排水の整備を行い、水田の乾田化を図ることで、幅広い作物栽培が可能な土地へ
→ 住民へのヒアリングの結果などから、今は乾田化を進める段階にないとして渠排水の整備は中止に。
- 高単価作物であるかぼちゃ200a、オクラ10aを新規導入する
→ 品質維持には手間暇がかかり、作付面積は目標の10%に。
- 共同利用機械の整備、ドローンの導入を行う
→ 米乾燥機、農業用ドローンなど導入。ドローンの活用で、数時間かかっていた農作業が数分で完了するなど、大幅な効率化と労働負担の軽減に成功した。



(2) 特産品の開発・販売などを通じ 地域の活性化や、ブランド化を目指す

- 以前より植樹が行われてきた椿を利用した新商品の開発・販売
→ 青年部が川沿いに椿を1,000本ほど植栽。商品化に十分な椿油を確保できたため、地元業者に加工してもらい瓶詰を試作。地元の妖怪伝説を生かし、ストーリー性のある商品を目指す。
- 地域全体の農作物の品質を向上させ、ブランド化を図る
→ 色彩選別機を導入し、米の品質向上を図り、ふるさと納税の返礼品に選ばれるブランド米を目指す。



(3) 耕作放棄地の解消を行い、農地保全を図る

- 圃場整備などにより改善された農地の有効活用・保全
→ 外部事業者への農地貸し出し、椿の植樹を検討。
- イノシシ対策となる電柵の整備
→ 地区全体に電気柵を設置した。



成果

成果目標

- ・ 高単価作物として、かぼちゃを200a、オクラ10aを新規作付けする。
- ・ 収穫体験を1回以上実施する。
- ・ スマート農業を目指した共同利用機械の整備を行う。

結果

- ・ 作付面積は10%ほど。新規作物導入の検討も行っていく。
- ・ コロナ禍により収穫体験は未実施に終わった。
- ・ 共同利用機械の整備を実施。今後「機械利用組合」の設立、作業受託の仕組みを整え、さらなる機械の共同利用化を進める。

今後に向けて

5年以内の法人化を目指す